

○毎日勤行に参加した生徒の様子と感想



1年生も初めて
アリーナでの勤行に臨みました。
(4/27(水))

☆生徒の感想

1年 H.Yさん

今日は初めてアリーナでの勤行に臨みました。教室でオンラインでの勤行に参加するのではなく、実際に自分の目で作法を確認することができたので、今までとは感じ方が異なりました。クラスで行うよりも学年全体で参列する方が緊張感が増したので、全校生徒が参列する勤行はさらに圧巻なのではないかと思いました。今後は、クラスでも気を抜かずに参加したいと思います。

1年 Y.Tさん

私は、今日初めて、アリーナでの勤行に参加しました。教室での作法には慣れていたのですが、いざアリーナに入ると、1年生14クラスが集まっていたせいか雰囲気圧倒されてしまいました。しかし、入場から退場までとても良い態度で臨めたと思います。

勤行指導では、藤崎先生から「合掌」についてのお話がありました。まずは、左手は自分を表し、右手は他の人を意味するという。次に、左手は欲望を表し、右手は仏の心（悪い心を清めるための合掌）を意味するという事です。

私が取り組んでいる剣道の作法にも、似たような習わしがあります。稽古の前に行う黙想では、右手の上に左手を重ね、右の親指と左の親指をくっつけます。剣道において欲を表す右手を左手で押さえることで、「欲に負けない精神を鍛える」という意味です。

明日からは教室での勤行になりますが、改めて「合掌」の意味をよく考えて、良い作法と雰囲気で勤行に取り組みたいと思います。



←間隔を空けて整列をしています。

宗教教育部長の藤崎先生による講話の様子→



1年 S.Tさん

今日は、本校のご本尊様のお話を伺いました。本校の本尊である「十一面観音菩薩」様には、頭の上にはたくさんの顔があります。その中には、怒った顔（憤怒相）もあると聞いて、私は驚きました。なぜなら「仏様の顔は優しい」というイメージがあったからです。実は、憤怒相とは実際に怒っているわけではなく、「人を救うために必死の形相になっている」というのが真実だそうです。私は、「確かに優しいだけの言い方では、あまり相手に伝わらないことがあるな」と思いました。仏様にも「怒ったように見える顔」があるということは、時には「怒る」という感情も必要なのだと感じました。

誰かが、何かしてはしけないことをしてしまった時に、ちゃんと注意するということが大切なのだと思います。

1年 M.Hさん

今日で毎日勤行が終わりました。最初は、勤行で何をやるのか、何故やるのが全く解りませんでした。ただ先生方に言われたことだけをやっていました。しかし次第に、朝、勤行を行うと、落ち着いて一日の始まりを迎えられるようになってきたのです。

また、校長先生や宗教科の藤崎先生に、考えることの大切さや黙想の意義、数珠とは何か等のお話をさせていただき、勤行の大切さを理解できるようになりました。

一度しか聞いていないので忘れていた部分もありますが、ポートフォリオには、私なりの考えや感じたことなどを書くことができました。

これから勤行は月曜日の朝だけになってしまいます。しかし、一週間の初めを落ち着いた気持ちでスタートできるよう、またポートフォリオにはもっと充実したことが書けるよう、しっかりと先生方のお話を聞いていくつもりです。